

新撰上州妙義詣

復刊版



群馬地域文化振興会

上州妙義詣

しやうしゅうめうぎやう

しやうしゅうめうぎやう

しやうしゅうめうぎやう

星連堂板

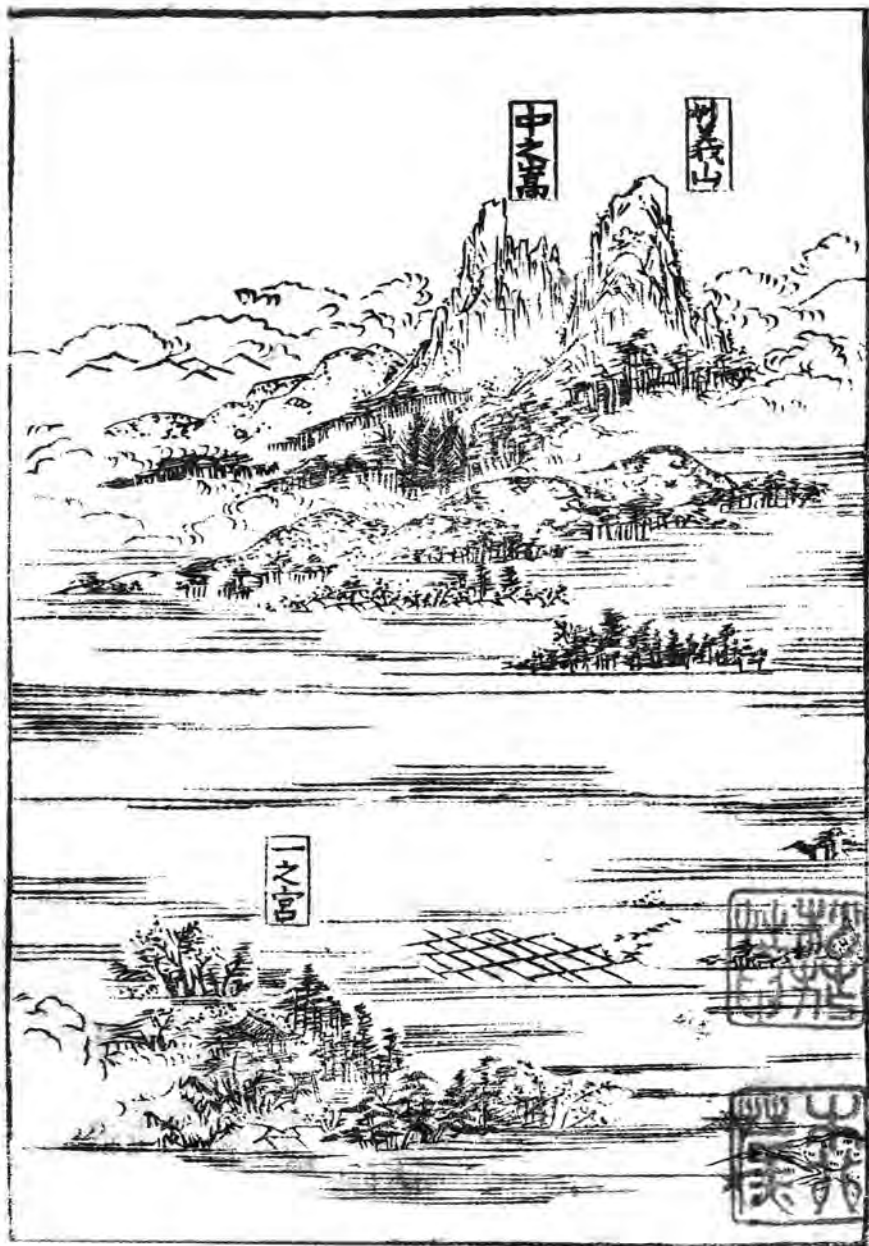




中之高

妙義山

一之宮



峯みね 七なな 本ほん 日ひ

妙たえ義ぎ 筑つく波は 大だい山さん 吉きち榎えの 羽は黒くろ 大だい峯ほう 日ひ光みつ
上かみ所ところ 常とこ別べつ 偏へん 州しゅう 羽は州しゅう 羽は州しゅう 野の州しゅう

社しゃ 二に 十じゅう 野の 上かみ

郡馬群

坐三

伊香保神社

榛名神社

郡多岐

赤城神社

郡波形

坐二

火雷神社

郡赤井

坐二

貫前神社

郡位伏

大畑神社

郡国片

小祝神社

郡田山

坐二

美和神社

郡

倭文神社

郡

宇藝神社

漢音吳音の辨



漢音ハ人合十六代
應神天皇十六年
百廿五の五仁と云
儒者論漢字文字
と云ふことありて

妙義論

高井嘯我撰

此度妙義論

思ふことありて

青法供一

子敬日温定

太子に教ふ事
け時より我う玉と
漢字成用し漢音
の始又大織冠孫
定公改め執事の時
佛經我う玉にあり
吳玉の比色尾素と
いふその海とまきて
對する玉に事なり尾
佛經に事なく日安
人始て是れ小玉と
よむ尾吳人かた
吳音かて傳ふ事也

上の
横よきくく本ほん郷きょう道どうと
打うちくくく若わく撒さ道どうと
本ほんをを路ろにに追おふ
越こええるる夜やとと暮くる
打うちくくくく新しん道どうと

あり誤て今に
 佛書成りしは
 國の漢書は
 之の時休
 由正しく
 吳公の部
 なるを
 召ふる
 自然
 家師
 之源遠
 倭字
 象墳

之窟
 果
 野
 之
 丸
 也

庚申
 塚
 護
 國
 寺
 也

密
 在
 之
 家

昭
 續
 板
 橋
 寺
 也

志
 村
 寺
 之
 戸
 向
 の

命トテ新字一部
 已拾に巻を撰む
 ころ也然下を書信
 つごもハ知じ今
 也、漢字を用て
 漢音吳音の二ツ
 たふ二音を出して
 示す

明

漢音メイ
 吳音ミヤウ
 唐音ミ

清

漢音セイ
 吳音シヤウ
 唐音シ

塘那いりれのるくるまるしるきるちるよるい

のらひらとら梅ら州ら秋らをら

饒ら婢られら久ら所らやら

戸ら田ら如ら川ら船ら打ら渡ら

堤らとら我らとら巖ら窟ら窟ら窟ら

又足ハ徳書ト明
 徳清育トヨミ又
 唯一神乃神明宮
 明王^{カミ}と御^{ミコ}不^フ明^{メイ}
 清淨ト云の別成
 以知^{イチ}也^ヤ御^{ミコ}不^フ明^{メイ}
 の人ハえよりそ御
 吳音の方^ウに近^{チカ}
 け也^ヤ不^フ明^{メイ}也^ヤ
 小足^コ吳音^ウに近^{チカ}
 知^チ多^タあり^リ叔^シ度^ト
 音^{オン}を^ヲも^トむ^クハ^ウ三^{サン}

情^{シヨウ}等^{トウ}之^ノ浦^{ウラ}私^シを^ヲ法^{ホウ}
 自^ジ獲^{ツク}れ^ル也^ヤ法^{ホウ}淨^{ジヨウ}也^ヤ
 宿^{シュク}瑞^{ズイ}の^ノ茶^{チャ}廊^{ドウ}之^ノ智^チ
 愁^{シュウ}ひ^ヒを^ヲく^クを^ヲ以^ヨ法^{ホウ}
 間^{カン}ク^ク嶽^{ガク}小^コ志^シ独^{ドク}之^ノ也^ヤ